

[年度] 令和元年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 収穫期にウンシュウミカンを加害するハナアザミウマの防除対策

[担当機関名] 果樹試験場環境部

[連絡先] 0737-52-4320

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

近年、収穫期の早い極早生や早生のウンシュウミカンでハナアザミウマによる被害が増加しています。果実が加害されると果皮が白くカスリ状になり（図1）、ひどい場合は腐敗することから、品質低下や収量の減少につながります。そこで、ハナアザミウマの発生生態を解明し、有効な防除薬剤を明らかにして防除対策を確立することを目的として研究に取り組みました。



図1 ハナアザミウマとその被害（左：雌成虫、中：被害果実、右：激しい加害により腐敗した果実

[研究の成果]

1. ハナアザミウマは着色期の果実に飛来します。極早生ウンシュウでは10月に発生が多くなり、果実が加害されます。
2. 秋季のセイタカアワダチソウがハナアザミウマの有力な飛来源の1つと考えられます。セイタカアワダチソウの開花初期から満開期にかけて生息数が増加すると同時に、ウンシュウミカンほ場へのハナアザミウマ成虫の飛来数が増加します（図2）。
3. スピネトラム水和剤及びスピノサド水和剤では、ハナアザミウマに対して高い防除効果が認められました（図3、4）。

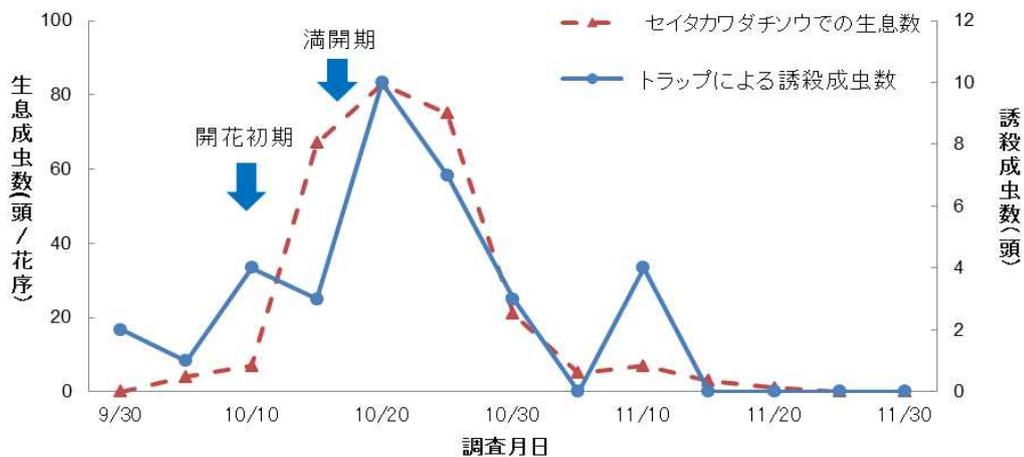


図2. ウンシュウミカンほ場周辺のセイタカアワダチソウでのハナアザミウマの生息数とは場内の黄色粘着トラップによる誘殺成虫数(2018年)

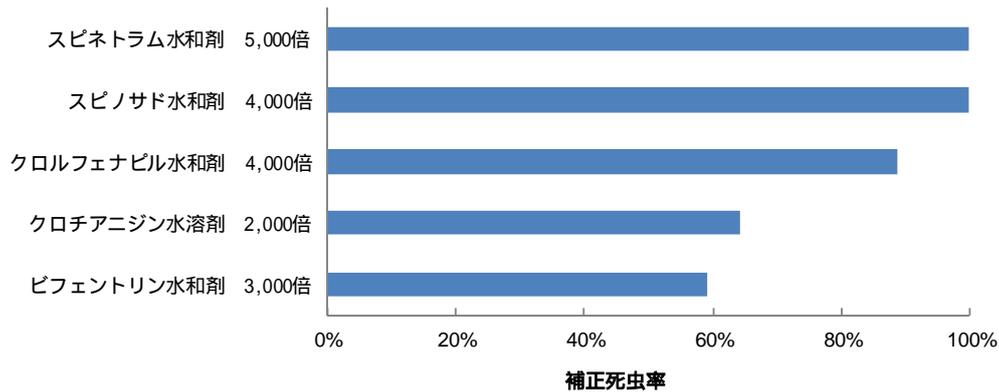


図3．ハナアザミウマ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果（2018年）

室内検定（果皮片浸漬法）。処理48時間後に生死を調査。

対照（水処理）の死亡率は6.8%であった。

供試虫：2018年10月15日に有田川町下津野のセイタカアワダチソウより採集したハナアザミウマ成虫

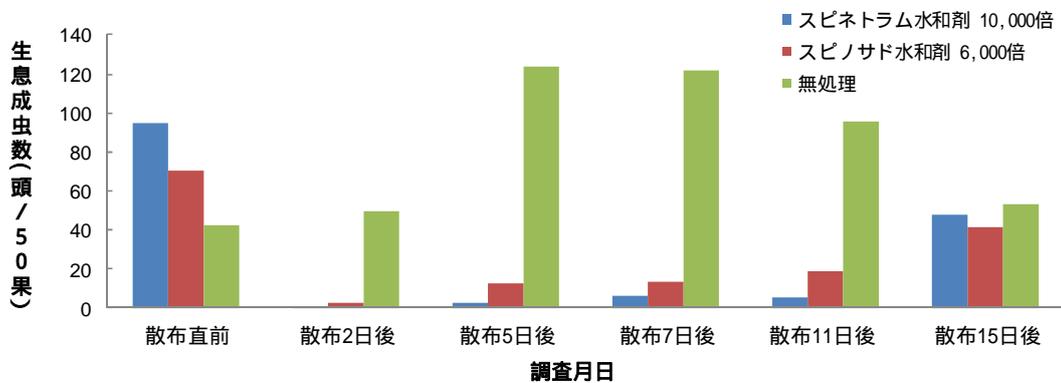


図4．ウンシュウミカンのハナアザミウマに対する薬剤の防除効果（2019年）

ほ場試験

散布日：2019年10月5日 試験場所：有田川町下津野

供試品種：ゆら早生 供試虫：自然発生

[成果のポイントと活用]

1. セイタカアワダチソウがほ場内やその周辺でみられた場合は除草を行い、飛来源の除去に努めます。
2. 果実が着色し始める頃からほ場内をよく見回ります。樹の上部の果実同士が接した部分を観察し、ハナアザミウマを1頭でも発見したら速やかに薬剤散布を行うことで、効果的に防除できます。
3. 防除薬剤はスピネトラム水和剤（収穫前日まで、2回以内）やスピノサド水和剤（収穫7日前まで、2回以内）が有効です。また、収穫日までに発生の増加がみられた場合は追加散布を行います。散布が収穫期の間近になることから薬剤の使用時期に注意が必要です。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業「収穫期にウンシュウミカンを加害するハナアザミウマの防除対策」）

研究期間：平成29～令和元年

研究担当者：松山尚生、勘代博文

発表論文等：なし